

視察・研修報告書

視察研修先	
日 時	2025 年 11 月 22 日
場 所	まどかぴあ会議室
テーマ	ローカル・マニフェスト研修 「大津市議会のキセキ」
対応者 (講師)	LM 推進ネットワーク九州 神吉 信之代表 元大津市議会局長 清水 克士氏
概 要	
本研修では、「大津市議会のキセキ」と題し、先進的な議会改革に取り組んできた大津市議会の事例を通じて、地方議会を取り巻く現状や課題、今後の議会のあり方について学んだ。議会基本条例、議員間討議、議会 DX、住民参加など、議会機能の強化に向けた取組が紹介され、今後の議会運営を考える上で参考となる内容である。 1. 議会改革の全国的動向 研修では、アンケート結果をもとに、全国の地方議会における議会改革の進捗状況が示された。議会基本条例については制定が進んでいるものの、研修で示されたアンケートでは全国の約 6 割弱にとどまっており、その理念が十分に共有されず、実効性を伴っていない議会も少なくないことが指摘された。また、議員間討議については、制度として位置付けられていても実際に実施している議会は約 3 割程度にとどまり、議会としての意思形成力の弱さが課題として挙げられた。 議会活動の評価・検証についても、継続的に取り組んでいる議会は限られており、議会改革が一過性の取組に終わってしまう要因となっていることが説明された。議会 DX については、タブレット端末の導入やインターネット配信など環境整備は約 9 割の議会で行われている一方で、活用が目的化してしまい、議会機能の向上に十分結び付いていない事例もあることから、今後は運用面の工夫が重要であるとされた。 2. 大津市議会における先進的取組 大津市議会では、議会改革を体系的かつ継続的に進めるため、大学との連携による政策立案支援、議会 BCP の策定、議会版実行計画（ミッションロードマップ）の策定など、複数の制度を組み合わせた取組が行われてきたことが紹介された。 特に、大学とのパートナーシップ協定を活用し、専門的知見を議会活動に取り入れることで、議会としての調査・政策立案能力を高めてきた点は、他自治体にとっても参考となる事例である。また、議会 BCP については、災害時や緊急時においても議会機能を維持し、意思決定を行うための体制を平時から整備しておく重要性が示された。 さらに、会派を超えた議員間討議を重視し、議会として合意形成を図りながら政策提言や条例制定につなげてきた点は、議会が主体的に政策形成を担う存在であることを示すものであり、議会改革の具体的な到達点として示された。 3. 住民参加と情報公開の取組	

研修では、住民の委員会傍聴や本会議・委員会のインターネット中継、会議資料の公開など、議会活動の見える化に向けた取組が紹介され、委員会傍聴を認めている議会は約9割に達していることが示された。これらは、住民が議会活動を理解し、関心を持つための基盤となるものである。

また、公聴会や意見交換会、議会報告会など、住民の声を直接聴く場を設けることの意義についても説明があり、単なる開催にとどまらず、そこで得られた意見を議会活動や政策形成にどのように反映させていくかが重要であるとされた。住民参加と情報公開を継続的に進めることが、議会への信頼向上につながるとの認識が示された。

所 感

研修を通じて、議会改革は制度整備にとどまらず、議会運営や政策形成の実践に結び付けていくことが重要であると感じた。特に、議員間討議を通じた合意形成や、住民の声を議会活動に反映させていく取組は、議会の役割を果たす上で欠かせないものである。

市議会においても、今回の研修で学んだ内容を参考にしながら、議会機能の向上と住民に開かれた議会運営に向けた取組を進めていく必要があると感じた。

作成者 松田美由紀